

史料紹介

別府市域通過の小史料二点

後藤重巳

はじめに

別府史談会では、昨年二月『別府の古い道』を刊行し、現在の市域を通過する豊前街道はじめ、さまざまな道の様態や沿線の関係遺跡などについて細かく検証し、好評を得た。

古代以降、設定される「道」には、各種の施設が設けられ、基点から終点までの総距離と、通過点の定点が計測され、それは「里程」として明記された。「里程」は、一里ごとに「塚」などが築かれた。道には、さらに細かく経由地間ごとの「丁数」も決められていた。

これらは、道を利用する場合の日数・時間・経費などの算定基準とするものであった。

幕末期には、伊能忠敬らにより全国土が測量され、村々間の詳細な里程と丁数が記録に残された。また、江戸期を通して、国々の多くの大名は、自国内の道路事情を調査し明細な

記録を残している。

ここに紹介する二点の小史料は、江戸時代中期と末期における別府市域通交の関係史料である。

史料解題

「工藤氏歴代家譜 全」（写本）豊後岡藩次倉組大庄屋工藤氏が、「家譜」の中に 享保二年正月、豊前中津藩の小笠原氏の除封に際し、岡藩の城番に随伴した折に別府通過の様子を記録したものから抄出したものである。いわば大名の軍旅である。

隊列が、今市から狭間・赤松・浜脇・別府・鶴見を経由して、宇佐・中津に至る道程が示されている。ここでは、別府市域に関わる前後を含む部分のみを抄出した。

「諸方道中記」（原本、体裁 半長帳、五十六葉）岡藩の町人が記録（書写）したものらしく、末尾に「明治十一年三月購求」と異筆の記載はあるものの、内容はほぼ江戸末期迄に書筆されたものと考えられる。内容は、岡表立に始まり、江戸迄の行程・諸所の名所・旧跡案内があり、町・村や宿場、前の宿場からの里程・駄賃の明細が記録されている。この「旅行案内記」「旅行手引書」である。ここ

でも参考までに別府に至る直前および直後の内容までを収録した。

二点の史料とも、鉄輪（鶴見村）から十文字原越の佐田道（能原道）を通過している。

《二》「工藤氏歴代家譜録 全」

（前略）

一、今市ヨリ肥後御領胸尻迄

式里半

但し、御茶屋勘左衛門ト云、町ノ手前ニ小川有り、

出口ニ大川有り、

一、松平対馬守様御料 挟間迄

胸尻ヨリ式丁

一、稲葉伊勢守様御領 北方迄

挟間ヨリ式十四丁

一、松平対馬守様御領 黒野迄

北方ヨリ拾丁

但し、三船村此ノ間ニ 川式筋有り、細道ニテ難

所也、

一、御公領 赤松峠

黒野ヨリ壹里半

但し、高崎山ノふもとヨリ赤松村海上見え申し候、

一、御公領 浜脇町

赤松ヨリ三十丁

但し、入口小川有り、

此間 六丁

一、御公領 別府

今市ヨリ六里

但し、御宿 庄屋堀助之丞同甚左衛門 浜脇 日

吉助右衛門

一、石垣原

但し、右ノ方ニ 実僧寺山並吉弘加兵衛墓有り、

一、久留嶋伊豫守様御領 鶴見原

別府ヨリ壹里

一、御料 赤川

鶴見ヨリ壹里半

但し、鶴見峠ふもと也、是ヨリ宮ヶ谷ノ間 能原

ト云、

赤川坂ノ上ヨリ右ノ方ニ 日出ノ城見へ、

実僧寺山見へ

一、生首ヶ谷

但し、谷ノ手前ニ、かくれ石有り、

一、木下右衛門太夫様御領 水ノ口

赤川ヨリ壹里半

但し、是ヨリ先ハ、小谷ニ太刀洗イノ水有り、

一、右同御領 宮ヶ谷

水ノ口ヨリ壹里

但し、此所ニ神森在リ、休所也、

一、御公領 中ヶ間

宮ヶ谷ヨリ三十丁

但し、此間ニ豊前豊後ノ堺有り、

（下略）

《二》「道中日記」

(前略)

一、こむたヨリ 今市まで巻里

此間、駄賃 巻里二付四分宛

一、今市ヨリ 胴尻迄三リ半

今市ヨリ一リ程先、右之方ニ 白タキ権現有リ、

左ノ方ニ西福寺ト云禪寺有リ、

一、胴尻ヨリ 別府迄三リ半

御宿 番人 太右衛門

町の手前ニ小川有リ、町迄一町程先ニ川有リ、歩

行渡リ石川也、

一、三船村ヨリ此間ニ 川ニツ有リ、一ツハ土橋也、

一、赤松峠 細道難所也、

一、浜脇村 獵師余多居也、海辺 高崎山ノ麓也、別府式三

町手前也、

右之間、駄賃 巻里ニ付 七分宛

日田高松代官所

御宿 堀助之丞

此間 駄賃四匁二分 一里 七分宛 此所ヨリ

三佐え五里 府内え三里海辺也、

一、石垣原右之方 海辺ニ実相寺山有リ、此所ニ吉弘加兵衛

尉墓有リ、海辺ニ松桜茂リタルうちニ有リ、是ヨリ右之

方ニ 日出城見ゆる、此間、細道坂多シ、左ニ鶴見が嶽

みゆる、

一、生首谷此先の原、山坂細道かやのなり、此先ニ豊後豊前

の堺の谷有リ、此先の上の原ト云、佐田ノ手前下り坂也、

一、佐田ヨリ 四日市迄三里

御宿 角野(加来カ)藤兵衛

同 孫九郎

一、別府ヨリ 小浦江三リ

一、小浦ヨリ 立石江四リ

一、立石ヨリ 宇佐江三リ

一、宇佐ヨリ 四日市江一リ

此間 駄賃壹匁四分 但し、巻里 八厘宛 宿の

入口ニ小川土橋有リ、町ヨリ半丁程先ニ京の石

ト云有リ、佐田ニ里過テ宇佐八幡の道有リ、本

道ヨリ半リ計リ有之、是ヨリ先ニ小川坂有リ、

此先ニやくわん川 栗石積の橋也、四日市六七

町手前也、(下略)

(以上)